

各地区で総会・記念講演会

08年まとめ・決算、09年方針・予算など決める

北河内地区

活動の柱は医院活性化

南唯廣氏を責任者に選出

協会の北河内地区は3月14日、総会を開き、08年度活動のまとめと決算、09年度方針と予算、役員体制を決めた。

活動方針は、医院活性化をキーワードに①会員に喜ばれる講習会の開催②要求を自治体に反映させる働き掛け③健診活動——を柱に取り組む。役員体制では、責任者に南唯廣氏(新)を選出したのを始め、評議員9人を選んだ。

有地正氏はあいさつで、「3月14日は、忘れもしない64年前、米軍による無差別爆撃が大阪を襲った日である」と語り、平和の尊さとアメリカへの憤り、今も追従する政府の姿勢を批判した。

協会の記念講演は、副島之彦氏(門真市開業)を講師に「小児患者への診療のポイント」をテーマに開き、23人が小児の扱いを学んだ。

子どもが治療に協力しにくい、泣いてしまいう、動かれて治療できないなど、そのような子どもにどうすれば治療ができるかを行動科学に基づいて具体的に解説した。子どもへは同時に大勢が声を掛けられない、理解できる言葉に言い換える、ボイスコントロールするなどの手段から、理論に基づいたトレーニング法などを、映像も用いながら実践的に説明した。

参加者から、指吸いをする子への対応や、先天性欠損、どこまでわがままを聞くのかなど、多くの質問が出され、副島氏は「はい、いいえ」に答えた。



参加者の質問に「はい、いいえ」に答える副島氏＝3月14日、大阪市内



有病者の口腔ケアについて話を聞く参加者＝3月22日、豊中市内



記念講演で根尖性歯周炎について話す小川氏＝3月22日、茨木市内

北大阪地区

口腔ケアで記念講演

感染予防などに効果大

協会の北大阪地区は3月22日、千里阪急ホテルで第9回北大阪地区総会を開いた。総会では、市民向け健康教室や会員向け講習会を柱に地区活動

に取り組みとした活動方針を確認し、新しい地区役員・評議員を選出し、次年度予算が承認された。

総会記念講演では、市立池田病院歯科口腔外科部長の大西徹郎氏が「口腔を管理する」歯科の新しい役割とは?——と題して、有病者の口腔ケアについて講演した。

市立池田病院では口腔外科外来の横に5年前から口腔ケアセンターを開設し、口腔ケアの活動として、①外科系の周術期

三島地区

地区責任者に永田氏

さらなる活性化を目指す

協会三島地区は3月22日、総会を開き、新地区責任者に永田篤氏(茨木市開業)を選出した。前任の土井喬氏は引き続き評議員を務める。永田氏は「私自身まだまだ若く、ご期待に添えない部分もあるかと思いますが、皆さんのご協力を得ながら地区活性化のために取り組んでいきたい。ご要望

やあつきの点がありましたら、地区役員や担当事務局にお声かけください」と抱負を語った。

副理事長で地区役員の永田悦夫氏は、大阪歯科・医科協会の共同で国に

総会では、2008年度決算、09年度予算を承認。四半期ごとに講習会を開催し、住民健診などを通じて地域との連携を強化する活動方針を確認した。

総会後は、小川敏氏(都島区開業、大阪歯科大学細菌学講座非常勤講師)を招き、記念講演「根尖性歯周炎を根絶する」を開いた。

同氏は、痛みや腐敗臭といった臨床症状をもとに抜髄治療をした場合、「5本に1本は細菌が残っている」と指摘し、「取り残した細菌が根尖性歯周炎の原因になっている」と述べた。

同氏は臨床データを示しながら嫌気培養による細菌検査の重要性を説明。根充時の無菌化で「数十年後の根尖性歯周炎の発症を防ぐことができる」と強調した。

ビスフォスフォネート系薬剤と顎骨壊死③

山上 紘志(堺市)

前回に引き続き結果(グラフ)の考察と、まとめを述べる。

⑤表に発症の原因とな

と考えられる。う蝕の単独処置だけではその発症はおきず、同時に併用した他の処置に由来すると推察される。

⑥図に示したように、一般に骨粗鬆症は60・70歳代の高齢者に多く認められる。また、乳癌、多発性骨髄腫も比較的高齢者に多く見られる。したがって高齢者がBPを与薬

ドローネートを経静脈的に

与薬し、骨折回数の減少、骨密度の増加を認めた報告がなされている(日本小児科学会雑誌、第106巻、第10号、2002年)。したがってBPの与薬されている年齢はかなり広範囲にわたると推測され、歯科臨床においても十分に注意する必要がある。

【結論】BRONJの発症の原因は不明であり、その発症を予防する適切な対処法がないのが現状である。またBRONJの発症頻度は決して高くはないが、いったんそれが発症すると極めて難治性である。今後BPの与薬量は増えると思

【付記】08年7月にBPとBRONJについて、医科・歯科合同の懇談会を持った。そこで内科・整形外科の先生方から、貴重な意見を助言されたことに謝意を表したい。西科でBPと薬に差異があるとの印象を持った。とくに骨粗鬆症の場合、その臨床評価、高齢者の日常生活の質のどちらかによって異なるものではなかろうか。さらにはBPの服用期間が随分と改善されているが、そのコンプライアンスの評価によるものではと感じた。(おわり)

日常の歯科臨床

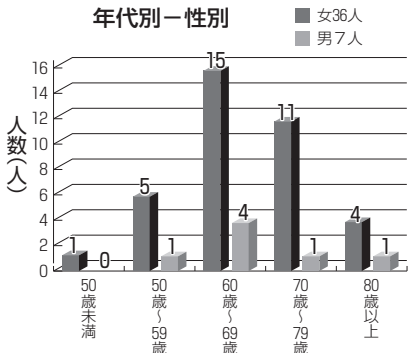
123

表 発症の原因となった歯科治療・処置の内容

(※その他には、インプラント、歯周治療などの観血的処置以外に、う蝕治療などを含む)

抜 歯	67.7%
歯内治療	0.1%
義 歯	0.1%
そ の 他	17.6%

図 性別と年齢構成



レセプトオンライン請求義務化撤回 「大阪訴訟」原告団参加申込書

私は、レセプトオンライン請求義務化撤回の「大阪訴訟」の原告団に参加します。 2009年4月

氏 名	
医療機関名	
電 話	
F A X	
住 所	

※切り取って、協会まで(FAX06-6568-0564)ご返送ください

患者②内科的疾患などで、ADLの低下した患者③抗がん剤の化学療法、放射線治療施行患者④糖尿病教育バス⑤NSTの一環としての口腔機能評価⑥歯科衛生士による病棟回診——などを介して、有病者の口腔ケアについて講演した。

市立池田病院では口腔外科外来の横に5年前から口腔ケアセンターを開設し、口腔ケアの活動として、①外科系の周術期

膜炎、手術部位への感染予防などに非常に効果があると思われる。

特に注目すべき点は、正しい口腔ケアを実施すると入院患者の入院日数の減少がみられることである。病床利用率の向上・診療単価の増加・来院患者数の増加がみられたことに驚きを覚え、これからの歯科医療ニーズの一端を見た気がした。

大西氏は、骨粗しょう症や癌の骨転移などに使

用されている、ビスフォスフォネート系薬剤の使用についても言及した。

使用経験のある方に、抜歯などの顎骨に刺激が加わる治療をすると顎骨壊死が発生することがあり、BP長期使用、癌化学療法、顎骨への放射線治療、ステロイド薬、糖尿病、喫煙飲酒、口腔内の不衛生などによって、顎骨壊死の発生確率が増加することが報告された。(吹田市・鎌谷吉秀)

医科・歯科・協同組合合同 協会親睦ゴルフコンペ

- 4月29日(水・祝日)午前9時52分 スタート(9時20分集合)
 - 関西カントリークラブ(京都府亀岡市西別院町木原東深谷9番地) 阪神高速木部J.Cから19分、千里中央より22分
 - 参加費用 2万2500円(プレフィー、コンペ参加費含む)
- ※ご家族・スタッフの参加歓迎! 定員になり次第締め切ります。お申し込みは、歯科協会事務局(☎06-6568-7731) 西野まで